

2019年5月3日(金)

老球の細道479号

## スクラップ&ビルト

会津バスケットボール協会 室井 富仁

コーチがチームを創り上げる時の重要なステップとして「スクラップ&ビルト」という考え方がある。今までのチームを一回スクラップ(分解)して、再び組み立てなおし(ビルト)、さらにレベルアップしたチームに創り変えることをいう。

一度できあがったものを分解して再度組み立てることは大変な作業であるが、チームを強化し続けるためには絶対欠かせないステップである。同じように、コーチ自身も常に成長し続けるためには、今まで踏襲してきたことから脱却して(スクラップ)、何らかの新しい刺激や研修を自分に課していかなければならない(ビルト)。そうしなければ、リフレッシュして今以上に進化したコーチにはなれないのではないだろうか。

教員であった今は昔、転勤の度に新しいチャンスが舞い込んできた。特に、コーチング状況が今までより悪化した時に大きな転機が来て変身することができた。教員にとって転勤の時がスクラップのチャンスであり、新しいチャレンジがビルトのチャンスである。

初任の原町高校から新地高校へ転勤した時である。1学年10クラスの大規模校から1学年2クラスの小規模高校に移動し戸惑うことがたくさんあった。一番困ったのはバスケット部がなくてサッカー部を持たされたことである。幸運にも副顧問で、練習はたった1時間程度だったので深入りすることはなかった。おかげで暇な時間がたくさんできた。

ちょうどその頃、福島県バスケットボール協会は国体を勝ち抜くためにオール福島の最強選抜チームを結成することになった。誰を専任ヘッドコーチにするかという話になり、チームがなくて暇である私に白羽の矢が当たった。若干34歳の時である。その時の少年女子のメンバーには日本人初のWNBA選手萩原美樹子(当時福島女子高)さん等錚々たるメンバーが揃っていた。今まで普通の選手しかコーチしたことがなかったので、スーパースター軍団を指導する困難さを初めて思い知らされた。しかしこの時の経験は私自身のビルトアップに大いに役立った。

また、会津高校時代は、転勤の年ライバル会工に負け続けたことを機にコーチを辞任した。コーチとしてダメな自分を見つめ直し、もう一度きちんとコーチ学を勉強しなければならないと思ったからである。そんな矢先バスケットの神様がチャンスを与えてくれた。

日本体育協会主催の公認コーチ資格取得の講習会を受講するチャンスを得たのである。各分野で日本の超一流の学者や指導者の話を聞くことができた。東京まで行って、1週間朝9時から夜9時までの実技と理論の講習会を年に3回受講した。最終日に試験をやって資格が与えられる。日本代表コーチや日本の一流コーチたちと一緒に勉強し、毎日緊張感の連続だったが充実の雨嵐だった。この時ほどコーチについて勉強したことはなかった。

この講習会以後、資格のキャリアアップにも励んだ。チームの実績は上げられなかったが、資格だけはなんとか上級を取得することができた。会津高校で負けて転勤がなかったら自分自身をスクラップしてビルトするという発想にはいたらなかったかもしれない。

ピンチに陥った時、マンネリ化の惰性に陥った時、環境が変わった時、自分を変えるチャンスである。今までやらなかったことにチャレンジしたり、今まで浅かったことについてさらに深く追求したりして勉強する。別人28号への道が待っている。